

地震対策

万が一の時にはどんな行動をとれば良いか、普段から意識しておきましょう。

地震発生時 どのような行動をとりますか

●職場で

- 倒れやすい棚や窓際から離れ、丈夫な机やテーブルなどの下に隠れる。
- 揺れがおさまったら火元を確認する。
- あわてて外に飛び出さない。

●自宅で

- 座布団や枕などで頭を保護し、テーブルやベッドなどの下に隠れる。
- すぐに火を消せる時は消す。すぐに消せない場合は無理をせず、揺れがおさまってから火の始末をする。コンセントやガスの元栓なども確認。
- ドアを開けて避難口を確保する。
- スリッパなどを履き、裸足のままでいい。

●車の運転中

- ゆっくりスピードを落として道路の左側に停車し、エンジンを切る。急ブレーキはかけない。
- 揺れがおさまるまで外に出ない。ラジオで情報確認。
- 車を離れるときはキーをつけたまま。窓は閉めて、ドアロックはしない。

○避難時のポイント



身の回りの危険な場所を知っておこう

東日本大震災以降、広く知られるようになった「ハザードマップ」。これは地図上で被害予測や避難場所など指示した地図のことです。各自治体でも作成されていてインターネットから手軽にみることができます。自分が今住んでいる場所が、

どんな災害の危険性があるのか。避難場所はどこなのか。家族や周りの人たちとも情報を共有しておきましょう。



「避難準備情報」とは

避難準備・高齢者等避難開始

避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合
 避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。
 その他の人は、避難の準備を整えましょう。

避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合
 速やかに避難場所へ避難をしましょう。
 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

避難指示

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合
 まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。
 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

Howto^{なで}

動画でもっとわかりやすく!暮らしに関するHowto情報を動画で配信中。



How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

